

阿知須町之報 阿知須町夜場発行 山口県吉敷郡 阿知須町 発行人 中尾 岩雄 編集人 土本 源一 印刷所 宇部新聞印刷所 宇部市東区五反田通 電話1725番

# 阿知須町躍進の源泉 ラジウム温泉の落成に際し



以上、含有量抽出世界第三位のラジウム温泉、中尾岩雄市長の熱心な指導と町民の協力により、本年三月に落成し、今や阿知須町の躍進の源泉となつてゐる。

## 縄田地先の埋立地變更

第五回臨時町議会は十一月八日午前九時召集、十七名出席のもと開会、執行部側から中尾町長、縄田助役参与と次部の議案につき質疑応答が交され、原案通り可決確定した。

議案第六号 公有水面埋立許可に伴う阿知須町の区域内外の變更等に関する事項について

議案第二十四号 町有財産一部処分について

議案第二十五号 追加更正一、四三三万円(第三回)

議案第二十八号 追加更正一、四三三万円(第三回)

議案第三十号 追加更正一、四三三万円(第三回)

議案第三十一号 追加更正一、四三三万円(第三回)

保母試験に合格お目出度う 昭和三十一年八月実施され保母試験に合格された方は次の通り

小沢知事から賞状授与 去る十一月二日阿知須町で山口県山形県農協同進連合会主催の漬物大根品評会

漬物大根品評会 阿知須町から出品された漬物は、山口県農協同進連合会主催の漬物大根品評会



在りし日を偲び、涙も新たに しめやかに慰霊祭執行

本年第五回の慰霊祭(二六六柱)は、十一月十一日(日)に阿知須町公民館で執り行われ、中尾町長が祝詞を述べ、慰霊祭を閉じられた。

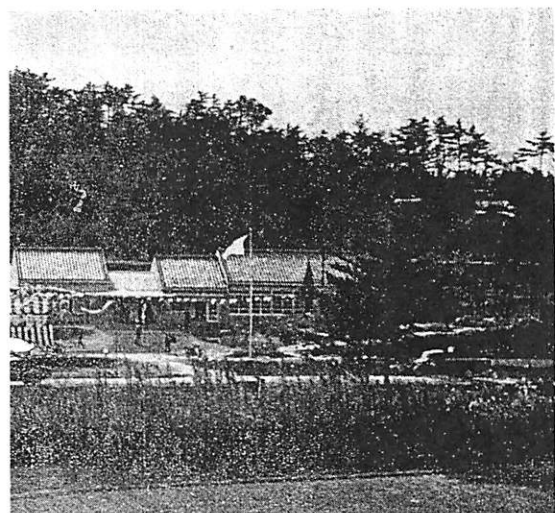
人事發令 阿知須町事務員を命ずる、阿知須町事務員を命ずる、阿知須町事務員を命ずる

造林計画 三万八千歩の 本年度は、明年三月までに事業費二億二千万円をもち、八千歩の造林を行つて行くこととしてゐる。

○一九三三年は西のむしろ、阿知須町は、町民の幸福が前途に待たせてゐる。

○一九三三年は西のむしろ、阿知須町は、町民の幸福が前途に待たせてゐる。

# 阿知須温泉開場 湯の町



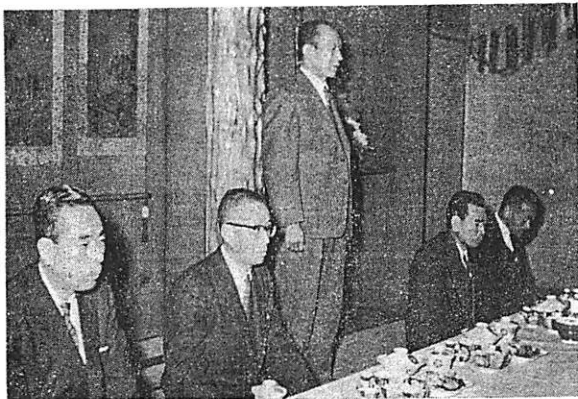
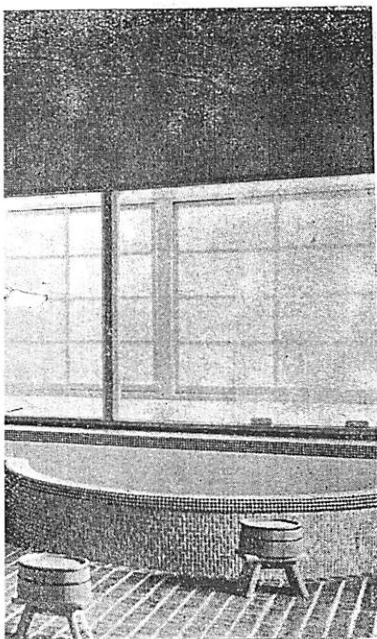
県知事  
の祝辞のあ  
つた小沢県知



**阿知須町ラジウム温泉全景**  
美しい山連に囲まれ湯の香源  
と湯の河内に、やらかな女の  
の肌を覗かせるいで湯の敷席は  
、静と希望と活動力を湧き出さ  
せる源泉、ほのぼのとした温泉  
情緒をいやがうえにもそり出  
す、附近一帯の風光は、四季を  
通じてさまざま、移り変りに  
あふくことを知らぬ温泉の地  
で、汲めどもつきぬ温泉郷であ  
るまやかな温泉郷である。

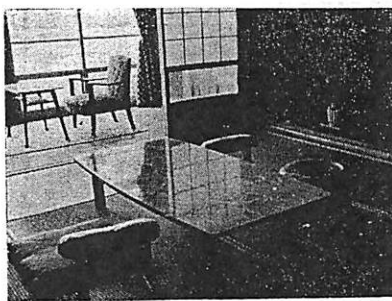
写真右は竹の間全景と  
それに続く扇形家族風  
呂、家族風呂には彫刻  
された小便小僧が居り  
そこから湯が流れる  
というほゝえましい風  
景

## 公衆浴場 般開放



松の間に落付いて温泉  
建設の苦心談を小沢知  
事に語る中尾町長

祝賀第二日目の三  
隅宇部市長の祝辞  
(中央起立)



写真上はハイキング  
コース(万年池公園附  
近)  
右は阿知須温泉小唄  
四季の湯の街々を踊る  
湯田のキレイどころ  
右上は練り歩く料飲組  
合のシヤギリ

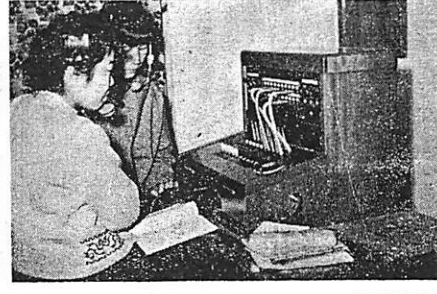
### 阿知須ラジウム温泉 四季の湯の街

作詞 土本源一  
作曲 鶴岡義雄

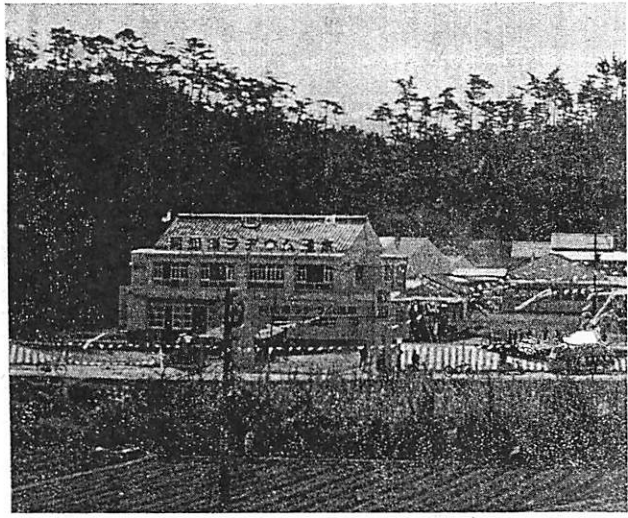
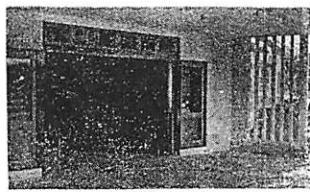
- 一、山の煙が あかねに染まりや  
あじす湯の街 湯の香にくれて  
旅の一夜を 情の宿に  
つきぬ名残りが 胸に沁む
- 二、春はかすみの 万年樓  
いで湯祭りの ルツボとなれば  
揃う手拍子 足なみ睡く  
踊りつかれりや お湯が待つ
- 三、夕陽うすづく 湯河内川に  
夢の螢の 飛び交う頃は  
誰れを待つやら 夜露に濡れて  
月見草さえ 泣いている
- 四、秋は紅葉の 江畑の池に  
啼りは名勝 万年めぐり  
桔梗 りんどう 湖畔に咲いて  
忘れられない ハイキング
- 五、須田の河内や 雨乞山と  
牡丹雪さえ 思いはつもる  
あじす湯宿に 今宵は二人  
つけておきたい 旅日記



# 我が郷土の誇り 四季



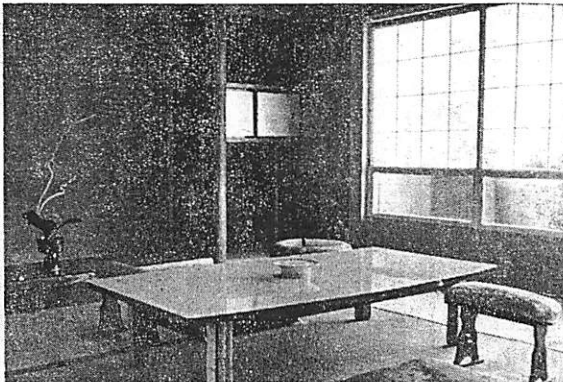
各室二十合の耳と口を一手に引受ける交換室



引野在明寺の東南三米の丘陵に遺徳院の墓がある。遺徳は毛利理元の家女で、金吾中納言は早川秀秋の家女であつた古瀧姫の墓号である。毛利家は化粧料として本町引野に於て高十石を古瀧姫に附与された。古瀧姫は自ら死後明室手塚内へ別荘を建て、葬居した。このとき遺徳院は母の墓居に於て、葬居して正保三年十二月二十日に逝された。よつてその遺骸を東南方の丘に埋葬し、遺徳院として一松を墓前に植えた。俗に後年これを「お姫様松」「名お乳松」とも言い伝えられるに至つた。古瀧姫はその後京都にお歸りになり慶安四年九月十九日なくなつた。この松は後月を経て大前になるに従ひ、次第にその根を岩の隙間に張り出し、墓石をたかさも母が兎を抱くかのように抱きこんでしまひ、長く母性の靈魂不散の感を醸えるかのように伝えられている。昭和二十二年十月病害のため樹高二百三年を越つてこの樹は枯れてしまつたが、毎年根株からお世継松が芽を出し、樹にすくすくと生長している。

## お姫様松

モダン美を誇る別館の玄関

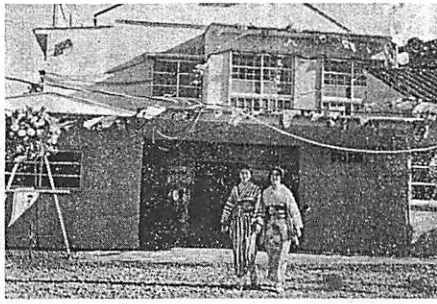
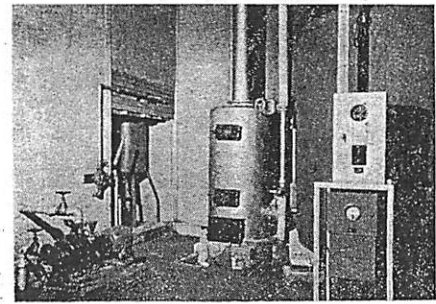


写真右は松の間の余景、左下は松の間専用の服装風呂で、ドアを開けると写真右にみるようなスタイルベツがある。カテナを開けば中国運轉を展望し、静かに運舟に渡つては河津を聞き、夜は夢の飛び交う様を見る。情緒味豊かな当館自備の風呂である。

黒田節を踊る  
中尾町長の積極町政をと、本館ステージに昇事さん、黒田節を踊る



写真左上は中国一を誇るポイラー室  
下は自慢の包丁の切味を振る調理室  
右上は本館玄関  
右下は本館応接室の一部



## 彩光美万点 10日から





